

# 巾着網漁場調査（昭和43年度）

川口 哲夫 ・ 小田切忠夫  
西山 勇二

山陰沖合における巾着網対象魚のアジ・サバ・イワシの回遊および生態を調査し直接漁業者の漁獲向上を目的として実施した。

## 方 法

使用船舶 試験船第一鳥取丸（99.14トン、450馬力）  
使用漁具 一本釣、立釣具等を使用し、副漁具として集魚灯を使用した。  
調査海域 隠岐北方・オキ堆および鳥取県沖合において実施した。  
調査期間 昭和43年8月31日～9月2日

## 結 果

調査は昭和43年9月の鳥取県沖合定線観測と同時に実施しその結果は第1図に示した。

魚群の分布は、島根半島より赤碕沖の極沿岸部にカタクチが上～中層（20～60m）、小サバ・小アジが海底（70～100m）に多くの反応がみられた。その沖合海域では上層（0～30m）に小イワシ・アジ仔、又20～200mにかけてキュウリエソの反応が多く認められ、9月1日19時00分～19時25分にかけてキュウリエソ浮上群を集魚したが魚群は分散した。

オキ堆および隠岐北方海域にわたっては夜間のため0～150mにかけてD・S・Lが全海域にわたり出現したが、北緯37度00分～北緯37度20分にかけて20～40mに小イワシ、アジ仔の反応が認められた。

これらの結果は調査海域において直接漁業無線によって巾着網漁船に通報し又帰港後は漁業者と調査の結果について検討を加えたが、極沿岸部においてはやや魚群量が多かったが沖合海域では魚群量は少なく巾着網漁場としては成立しないと考えられた。

図-1 魚群調査航走海域図

